

OEC ニュースレター

～ 自然と環境の保全は足元から ～
特定非営利活動法人おきなわ環境クラブ (OEC)

vol.28

2017年6月発行

【1面】
・初夏の風物詩 サガリバナ
・島しょの水環境

【2面】
・ワング★ワング島通信 No.1
・サポーターの声:「あるにこ」
・104人でツブブキ1000株!

【3面】
・マングローブのつぶやき ～その10～
・JICA研修『島嶼水環境の保全と管理』
・第2回おきなわ水環境セミナー

【4面】
・活動実績
・活動予定
・お知らせ

トピック① 初夏の風物詩 サガリバナ

日没後に開花し、夜明け頃に散るサガリバナ。夜しか花が咲かないためか見たことがないという人も多いが、沖縄の夏を彩る魅力的な花の1つである。

サガリバナは亜熱帯～熱帯気候に生育する。花は白～ピンク色で房状に集まって咲き、糸のようなたくさんの雄しべがフワッと柔らかい印象を醸し出している。甘い香りを漂わせながら咲く様子はとても幻想的で、開花すると1晩で散ってしまうという儚さも魅力の1つだ。

公園内や街路樹として植えられていることも多く、那覇市内でも末吉公園や首里崎山町の瑞泉通りなどで間近に楽しむことができる。

おきなわ環境クラブでは、6月末から7月上旬にかけて、サガリバナ観賞会を開催する。沖縄ならではの初夏の風物詩サガリバナを、ぜひ見ていただきたい。

▼国場集落(6月24日±)20:00-21:00
ガイドツアー。要申込。

▼首里崎山町(7月1日±)19:00-21:30、
2日±)19:30-21:30)
瑞泉酒造と自治会前の通りをホコ天にして、自由観賞。

▼末吉公園(7月8日±、9日±)19:30-
21:30)
公園内の並木をライトアップし、自由観賞。
(主任研究員 平山加奈子)



昨年度サガリバナ観賞会の様子

トピック② 島しょの水環境

今、沖縄が世界に誇れる情報・スキルの一つに『島しょの水環境保全策』があり、①下水道・浄化槽設置やごみ処理などのインフラ整備、②法整備と規制・モニタリング体制づくり、③一人ひとりの自然と環境への認識(啓発・教育)が基本となる。



パラオ下水処理場実習

日本復帰後の45年間、これらの情報・スキルが蓄積された。

沖縄では私たちの産業活動と生活、そして米軍基地によって、埋め立てや諸開発など「物理的な改変」、川や海、地下水の「水質(赤土、有機質、有害物質)汚濁」、外来生物などによる「生物学的かく乱」など、特に復帰後、多くの水環境問題が起きた。これらの問題を解決するため、行政と市民・NPO、企業が一体となって前述の保全策(①、②、③)に取り組んだ。今、これらの成果として、街中の河川ではドブ臭さを感じなくなり、死魚事例が起きなくなり、そして畑地からの赤土汚濁もひとところに比

べ減少した。

環境教育活動を機軸とするOECは、沖縄の経験から得られた「島しょ水環境保全」の情報・スキルを、JICA研修などを通して沖縄から発信している。島の水環境は、コンパクトで壊れやすい生態系である。今、世界の島しょ地域では、水資源の確保を初め、排水やごみ対策が最も重要な課題となっている。OECでは、これからも沖縄の経験を活かして、②モニタリング体制づくりや、③啓発・教育について、それぞれの地域に適した取り組みを手伝って行く。

(会長 下地邦輝)

ダイバー秘境 ワンギ★ワンギ島通信 No.1 JICA草の根プロジェクト@インドネシア・ワトビ海洋公園

2月上旬にJICAとOECでインドネシアを訪問し、プロジェクト開始の合意を得ました。その後、ビザもスムーズに取れ、4月17日に出発、19日に現地に到着しました。空港に英語のできるドライバーが来たと思ったら、初めて会うOECのプロジェクト・アシスタントでした。

プロジェクトは現地開発企画局とのチームで進めます。まず、住民グループをどのように作るか、チームで夜中まで話し合いをし、対象7村から1人ずつメンバーを選ぶことにしました。担当職員は前日夜までかかって村と調整をし、局長は猛烈な忙しさの中終日時間を割いて、1日で6村への説明会を実現させました。すでに、1村より有望な若者グループの代表がメンバーとして内定しました。

村の海には、バラの花束のような葉状サンゴや、イソバナ、壺型の大型カイメンが並ぶウォールポイントがあります。魚は星のように散らばり、サンゴの種類が半端なく豊富♡ (研究員 山本朝子)



村長宅の東屋でプロジェクトの説明をするカウンターパート機関の局長(左端)

トピック③ サポーターの声：障害福祉サービス事業所「あるにこ」



【上】「あるにこ」の皆さんと。左から、OEC会長、筆者、あるにこの皆さん

【左】植栽活動中には、他の参加者と交流

「あるにこ」は那覇市で障がい福祉サービスを行っている団体。代表理事の戸坂さんは、青年海外協力隊としてネパールで活動していた経歴があり、同地で活動していたOEC事務局長の立田とは、そのころ知り合ったそうである。そんな縁もあって、ツブキロード造り隊(報告①参照)にも参加していた。

主に植栽するための穴掘り作業を担当していただいたが、「硬い土壌などもあり、掘るのは大変でした」と戸坂さん。造り隊に参加した感想をお聞きしたところ「自分たちが植栽したツブキ

が大きく育ち、市民の癒しになってくれればと思います」という素敵なお言葉をいただいた。

「あるにこ」さん、これからもよろしく！ (研究員 高嶺正満)

報告① 104人で ツブキ1000株！

おきなわ環境クラブでは、国場川の南岸(鏡原・漫湖公園市民庭球場側)にある遊歩道沿いに、ツブキなどの沖縄の水辺植物を植栽し、花と緑の憩いの場創り活動を行っている。

平成28年度はセブン-イレブン記念財団から助成金をいただいて、「花と緑で憩いの場に！ツブキロード造り隊」を



植えられたツブキ

実施し、10月から2月の5か月間で、ツブキ1000株と、ゲットウやハマオモト、サガリバナなど約300株を植栽した。

参加してくださったのは、当クラブの会員のほか、地域で活動している団体や一般参加の方など104名。植栽後の水やりもしっかり行い、植えた植物は順調に大きくなっている。



植え方の説明を聞く参加者



「リベラリズム」「あるにこ」の皆さんと「ツブキロード造り隊」活動後の記念写真

今年度は、除草や補植など、植栽後のお手入れも実施する予定なので、多くの方に参加いただきたい。

(主任研究員 平山加奈子)

コラム マングローブのつばやき ～その10～ 中流域に生育するサガリバナの謎

沖縄の多くの川で、その河口域、中流の川岸やその周辺にサガリバナが生育している。サガリバナは、サキシマスオウノキやアダン、ユウナ(オオハマボウ)、サキシマハマボウ、ハスノハギリなどマングローブの後背地に生育する植物群(バックマングローブ)を構成する一種で、分布の北限が奄美大島である。

サガリバナの種子は、ほかのバックマングローブやヤシの実同様に漂流散布種子で、潮流や海流により運ばれ、海岸や河口に種子が流れ着き、そこで発芽して分布を広げてきたと思われる。しかし、島々の川では、潮の干満で海水が達しない中流の川岸やその周りにもサガリバナが生育している。それらの多くは人手によらない自生の株だと思われるが、どうやって種子が運ばれ、定着・生育したか、それが謎である。その謎解きのヒントは、宮古島の『添道サガリバナ群生地』にあると推測する。

宮古島には川がないと言われるが、陸(流)域に降った雨を海へ流し出す、降雨時に川となる水路がある。前述の群生地はこの水路を挟む谷間に当たり、島の西海岸クーラ(小浦)の河口から約3km上流で、標高20m地点に位置する。以前、近くの下流地点でも同種の群落があり、また、アダンが繁茂した



サガリバナ種子(左)と実生(右)



添道サガリバナの自生株

近くの嶺には火山性の軽石が沢山見られたという。群生地のサガリバナ、近くの同種群落と軽石が流れ着いたアダンの嶺など、漂着種子に由来する植物群と軽石から推測するに、小河川(水路)の中流地点まで種子を運んできたのは『津波』ではないかと推測する。しかしながら、これらの確証はサガリバナのDNAと地層年代などの解析を待たねばならない。

(会長 下地邦輝)

報告② JICA研修『島嶼水環境の保全と管理』



赤土汚濁測定法の実習

島嶼国は水資源が限られており、有効活用と水源の環境保全が重要である。

沖縄の事例と経験を基に、カリブ・アジア大洋州・アフリカの島国からの研修員がこれらを学ぶJICA研修コースを1月16日から8週間実施した。

飲料水や排水の水質管理を行う衛生分野と水道供給を行う水道分野の

研修員が9名集まり、県内で講義、視察と実習を通して学び、また自国の現状と課題への取り組みについて議論を交わしながら、帰国後の活動計画を立てた。

生活に欠かすことのできない水資源をどのように確保し効率よく使えばいいのか、世界の人々と考えるいい機会となった。(事務局長 立田亜由美)



プロジェクトの企画立案方法を学ぶ演習

報告③ 第2回 おきなわ水環境セミナー

2月6日に水環境セミナーを開催した。

国際協力機構(JICA)国際協力専門員の天野史郎氏をお迎えし、「途上国の現状から廃棄物処理の原点を見つめる」というテーマでお話いただいた。

行政や企業の関係者など約15名が参加し、講師が目の当たりにした途上国の現状や廃棄物問題などについて耳を傾けていた。

(主任研究員 平山加奈子)



途上国の廃棄物問題に詳しい講師の天野史郎氏

活動実績 (2016年12月～2017年5月)



草の根プロジェクト・チーム現地スタッフの皆さん
前列左からアスリさん、マスさん、ムタさん、アジさん

【地域活動】

- ◆学習の場創り事業
 - 第4回ツワブキロード造り隊:12/2
 - 第5回ツワブキロード造り隊:1/30
 - 第6回ツワブキロード造り隊:2/3
 - 第7回ツワブキロード造り隊:2/25
- ◆第2回おきなわ水環境セミナー:2/6

【国際協力】

- ◆受託事業
 - ①JICA研修員受入事業:国別研修
「ミクロネシア3国水衛生管理」:12/5～1/26
 - ②JICA研修員受入事業:課題別研修
「島嶼水環境の保全と管理」:1/16～3/10
 - ③JICA草の根技術協力事業
「南東スラウェシ州ワカトビ県における地域に根差した環境保全型観光開発の推進」:3/15～3年間

活動予定 (2017年6月～11月)

【地域活動】

- ◆サガリバナ観賞会:
 - 国場集落:6/24
 - 首里崎山町馬場通り:7/1,2
 - 末吉公園:7/8,9
- ◆出前講座、団体受入:随時
- ◆第3回おきなわエコツーリズムセミナー:9月
- ◆おきなわアジェンダ21
 - 県民環境フェア in なご:10/8
- ◆JICA国際協力・交流フェスティバル:11月予定

「熱帯・亜熱帯エコツーリズム企画・運営」:

9/25～11/24

②JICA草の根技術協力事業

「南東スラウェシ州ワカトビ県における地域に根差した環境保全型観光開発の推進」:

3/15～3年間



JICA国際協力交流フェスティバル

【国際協力】

- ◆受託事業
 - ①JICA研修員受入事業:課題別研修
「島嶼環境持続性強化」:7/3～8/18



サガリバナ観賞会。崎山町は白い花が多い

お知らせ

会員・ボランティア募集

入会申込はホームページから願います。
緑化活動をお手伝いして下さるボランティアを随時募集しています。お気軽に電話やメールでご連絡ください。

達人デリバリ- (出前講座) ミライへ・プロジェクト (団体受入)

お申込み・お問い合わせはこちらまで!

TEL 098-833-9493

E-mail gyomu@npo-oec.com



エコツアー 自然を楽しむ おすすめ7コースのご案内

	コース	開催時期	所要時間(目安)
1	街なかシリーズ第1弾 街なかde自然体験	通年	120分
2	マングローブ染め体験	通年	120分
3	街なかシリーズ第2弾 首里の自然発見!	3～11月	120分
4	ライトトラップを仕掛けてみよう!	3～11月	60～90分
5	イノー(磯)で感じる沖縄の自然と歴史	4月～8月	120分
6	ホテル観察へGO!	5月半ば～7月	60分
7	夜咲く南国の花～サガリバナ～	6月～11月	60分

特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ



〒902-0075

沖縄県那覇市国場370番地307号室

TEL 098-833-9493

FAX 098-833-9473

ホームページ

<http://www.npo-oec.com>

e-mail kokuba@npo-oec.com

www.facebook.com/OkEnv

